

令和4年度 みくま 事業報告書

1 はじめに

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の流行が続き、日々の消毒など感染対策を講じていたが、年間で職員1名、利用者5名が罹患した。幸いにも重症化や感染が拡大することはなく、事業運営に大きな影響はなかったが、今後も油断せず継続して感染対策を行っていききたい。

就労支援事業においては、最低賃金の上昇や食材費をはじめとする物価上昇の影響を受け、年度途中の試算で赤字収支になる見込みとなったが、収支改善のために仕入れ食材などの見直しによるコスト削減に取り組むとともに、11月からは弁当類の販売価格を改定し、黒字収支に転換することができた。収支状況の安定化が図られた一方で、調理の過程で加熱が不十分な可能性がある唐揚げを提供してしまう事故があり、事業内容においては危機管理の意識や手法の不十分さが明らかになった。健康被害の報告はなかったが、事故の対応や報告の遅れがあったことが大きな反省点である。事故後すぐに再発防止策を検討、実施し、それ以降事故は起きていない。

令和3年度に改善することができなかった事業管理の杜撰さについては、記録の整備など徐々に改善してきており、引き続き改善を図っていききたい。また、職員間の情報共有や利用者の長所に目を向ける風土が少しずつ根付いてきていると感じる。

2 事業概要

- 1) 施設名 みくま
- 2) 事業種別 就労継続支援A型
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-12
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 17名
- 6) 利用現員 17名（令和5年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成25年 1月 1日
- 9) 職員 9名（令和5年3月31日現在）

管理者	1名	
サービス管理責任者	1名	
職業指導員	1名	（常勤換算1.0）
生活支援員	6名	（常勤換算2.7）

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

1) 就労支援

「みくま」の従業員として能力が発揮できるように、個々の状況にあった作業を提供する。また、一般企業で働く為のステップアップとして、就労に向けた相談や就職活動に関して支援する。

2) 生活支援

利用者が安心、安定した生活ができるよう支援を行う。一般企業へのステップアップを希望している利用者に対しては、生活面等の課題を把握し就労に向けた生活全般の支援を関係機関と連携しながら行う。

5 実施事業（活動内容）

1) 就労支援事業

- (1) 弁当製造・販売
- (2) 清掃及び受注事業
- (3) 緑化推進事業

2) 行事

(1) バスハイク (年1回実施)

6 日 課

開所・作業	7 : 30 ~ 12 : 20
昼礼	12 : 20 ~ 12 : 30
休憩	12 : 30 ~ 13 : 30
作業・記録等	13 : 30 ~ 17 : 30

7 重点課題・目標

1) 活動

(1) 就労支援事業の充実

① 弁当製造事業安定のため次のことを実施する。

ア. 安定収入を確保する

- ・近隣の企業や医療機関等へチラシの配布など営業活動を行い、新規に顧客を増やす。
- ・弁当の委託販売先を増やすための営業活動 (電話・チラシ配布) を行う。

	1日平均	
	日替弁当売上	年間売上
令和3年度実績	200個	2,245万円
令和4年度目標	210個	2,300万円
増加分	10個	55万円

【成果と課題】

新型コロナウイルスによる法人内通所事業所の利用者の通所停止の影響はあったが、近隣に移転してきた企業からの注文が1日約20食増加したことや、研修などでの特別注文、11月から行った価格改定の効果もあり、販売数、売上ともに目標を達成した (下記表参照)。

営業活動に関しては、昨年度、職員2名が退職し、弁当製造や配達の体制確保が厳しい状況となり、活動を行わない時期もあったが、7月末から8月にかけて2名の職員が入職した後は近隣へのメニュー配布などの営業活動を再開した。関係機関からの紹介もあり、新規の顧客を15件獲得した。

◆弁当売上個数及び売上金額

	1日平均売上個数	売上金額
令和4年度目標	210個	2,300万円
令和4年度実績	224個	2,619万円 (目標達成率: 113.8%)

※11月から弁当類の価格を50円値上げ

イ. 内容充実のための取り組み

- ・衛生管理の徹底 — HACCP (※1) の考え方を取り入れた衛生管理マニュアルを遵守するとともに、異物混入防止を徹底する。
- ・弁当内容の充実 — メインメニューおよび副菜の見直しを定期的に行うとともに、盛り付け方法や容器、彩りを工夫し、購買意欲を促進する。

(※1) HACCPとは・・・安全な食品を製造するための製造工程の管理方法のこと

【成果と課題】

ア. 衛生管理の徹底

令和3年6月に髪の毛が弁当に混入する事故が起き、髪の毛の落下を防ぐために髪の毛が落下しにくい帽子に変更して以降は異物混入の事故は起きていない。また、今年度よりHACCPの考え方を取り入れた衛生管理マニュアルを導入し、日々チェック表を記入している。しかし、7月に加熱が不十分な可能性のある唐揚げを提供してしまう事故があった。揚げ油の温度管理の徹底など、再発防止策を実行し、それ以降に事故は起きていない (事故の詳細と再発防止策は9に記載)。

イ. 弁当内容の充実

メインメニューを7種類増加し、カラーカップや彩りの良い食材を活用し盛り付けの工夫を行った。彩りに関しては少しずつ改善しているが、使い捨て容器を使用した際に食材の無い部分が多くなり、

見た目が寂しい印象を受けることがある。改善策として、容器の変更などを検討したが、まだ改善には至っておらず、引き続き検討していきたい。

② 新規作業を実施する。

不定期の作業を含め、作業時間や人員を有効に使える作業を積極的に取り入れる

【成果と課題】

職員体制の不足や作業開拓時間の確保が困難なことがあり、新規事業は実施できなかった。

③ その他の作業を含め収益増加を目指す。(概算、単位：円)

	令和4年度目標収益	令和3年度実績	差額
弁当製造事業	2,300万	2,245万	55万
清掃作業	492万	488万	4万
緑化推進事業	130万	130万	0万
利用者支援業務	18万	17万	1万
名刺の作成作業	18万	12万	6万
その他受注作業等	13万	17万	△4万
合計	2,971万	2,909万	62万

【成果と課題】

就労支援事業全体では、売上目標に対し約309万円上回り、達成率は110%となった(下記表参照)。しかし、原材料など物価の上昇や、利用実績増加と最低賃金の上昇に伴う利用者賃金の増加などもあり、年度途中の試算では、今年度100万円前後の赤字となる見込みとなった。就労支援事業の収支改善のため、平成31年4月以降、従来の価格を維持してきた弁当について、既存顧客に丁寧に説明した上で11月から値上げを実施した。値上げ直後は弁当の注文個数が一時的に落ち込むこともあったが、徐々に回復してきている。また、仕入れ品目の変更などによるコスト削減にも取り組み、就労支援事業全体で62万円の黒字収支とすることができた。

《概算》	目標作業収益(円)	令和4年度実績	差額	目標達成率
弁当製造事業	2,300万	2,619万	319万	113%
清掃作業	492万	491万	△1万	99%
緑化推進事業	130万	130万	0万	100%
利用者支援業務	18万	15万	△3万	83%
名刺の作成作業	18万	13万	△5万	72%
その他受注作業等	13万	12万	△1万	92%
計	2,971万	3,280万	309万	110%

(2) 利用者支援の充実

- ① 長所に目を向け、職員間で共有するとともに、それを本人に積極的に伝え、働く意欲や向上心が高まるよう支援を行う。
- ② 現状にあった個別支援計画を作成し、支援計画の共有とそれに基づく支援を実施する。支援経過は丁寧に記録し、情報共有や意見交換等による支援経過の評価、見直しを行い、チーム支援の充実を図る。
- ③ 就労事業における、目標、実践、評価を丁寧に言い、職業指導の向上を図る。
- ④ 一般就労を目指す利用者には、希望する職種や働き方など具体的なイメージが持てるように、就労支援センターと連携し、就職活動の支援を行う。

【成果と課題】

- ① 職員ミーティングで利用者の良かった点を共有し、積極的に利用者に伝えた。職員間で共有することで良い点を意識する機会が増え、記録や利用者へのフィードバックも増加し、利用者の意欲の向上などにつながったと感じている。
- ②③利用者全員と面談を行い、職員からの評価を伝えるとともに本人の希望を聞きとり、個別支援計画を作成した。評価を丁寧に行った上で計画を作成する意識が出てきたと感じ、概ね丁寧に評価が行われた。個別支援計画も概ね丁寧に作成されているが、同じ利用者に類似した目標が設定されているこ

ともあり、目標の整理が必要であると感じている。ケース記録に関しては、支援計画に沿った記録や心情面の記録が徐々に増えてきているが、まだ記載が不十分な点が散見されるなど課題も残っている。また、ミーティングを定期的を実施することで、職員間の意見交換が活発になったこともあり、PDCAサイクルの実施やチーム支援に対する意識の向上が見られる。

④対象者3名のうち1名は7月に清掃や庶務業務担当として就職した。就職活動にあたっては就労支援センターの支援も受け、連携体制をとることができた。退所後も来訪などにより、状況の確認ができているが、順調に勤務を続けているとのことである。残りの2名は、一般就労を目指す時期は明確には決まっていないとのことだが、作業を継続することで対人スキルや作業の正確性などの向上が見られる。

2) 人材育成

(1) 全職員の業務スキルの向上を図る。

- ① 事業方針を把握した上、事業計画に従い業務に携わる。
- ② 個別支援計画に沿った支援を行うとともに利用者の状況や支援経過をケース記録に丁寧に記載し、評価、見直しを行う。
- ③ 利用者の心情理解、リスク管理、支援技術など基本的スキルを向上する。
- ④ 職員の連携強化（情報共有、チームとしての支援）

【成果と課題】

7-1) - (2) ②③に記載の通り。

3) 経営管理

(1) 利用者の確保を行い経営基盤の安定を図る

- ① 近隣の関係機関リストをもとに、ワークセンター夢の樹就労移行支援、定着支援、バウムと連携し、近隣の特別支援学校、就労支援センター、ハローワーク、特定相談支援事業所、就労継続支援B型事業所等へ利用者募集を行う。
- ② 法人機関紙およびホームページへ募集案内を掲載、チラシ配布、ポスター掲示などの広報活動により利用者募集を行う。

《利用者数増加目標数》

令和3年度は、雇用契約者2名、利用契約者4名の合計6名が退所した。また、令和4年5月までに更に2名が退所予定となっている。令和4年度以降の経営安定化のためには、令和4年度中に6名の利用者の確保が必要である（詳細は下記表参照）。

	雇用契約者	利用契約者	1日平均利用者数
令和4年5月末利用者数(見込)	10名	5名	12.2名
必要利用者数目標	13名	8名	15.6名
令和4年度増員目標	3名	3名	3.4名

《利用者数増加による訓練等給付費収入及び当期資金収支差額目標額》

	訓練等給付費収入	サービス推進費他	当期資金収支差額
令和3年度実績	2,492万円	548万円	104万円
令和4年度目標	2,800万円	535万円	20万円

※3月は賞与があるため収支差額が減少する。

※令和4年度は管理者給与の支払いや、10月以降社会保険料の増額を見込んでおり、収入が増加しても収支差額は減少すると見込んでいる。

【成果と課題】

関係機関及びハローワークへの求人活動、バウムからの利用者紹介等により、雇用契約者3名、利用契約者1名が利用を開始したが、雇用契約者3名の内6月から利用を開始した1名は、環境が合わずに10月で利用を終了した。令和4年度の増員目標には達しなかったが、令和4年度末の1日平均利用者数は14.3名となり、前年度末の13.3名から増加した。また、前年度に利用者支援に関する外部研修への参加や、他法人の就労継続支援A型事業所との相互視察などを実施し、報酬ランクが上がったこともあり、施設会計は黒字収支となった。

利用者賃金の増加や物価の高騰に伴う就労支援事業会計収支の悪化の状況を鑑みて、新規利用者の受入は一時中止していたが、弁当の価格改定後に収支状況が好転したため、新規利用者（利用契約）の受入れを再開し、令和5年4月から1名が利用を開始することとなった。利用者の退所等の可能性を考慮し、利用待機者の確保にも継続して取り組んだが、待機の希望者はいなかった。

	雇用契約者	利用契約者	1日平均利用者数
令和3年度3月末利用者数	11名	7名	13.3名
令和4年度目標利用者数	13名	8名	15.6名
令和4年度3月末利用者数	12名	5名	14.3名

《利用者数増加による訓練等給付費収入及び当期資金収支差額目標額》

	訓練等給付費収入	サービス推進費他	資金収支差額
令和3年度実績	2,492万円	548万円	104万円
令和4年度目標	2,800万円	535万円	20万円
令和4年度実績	2,767万円	592万円	268万円

(2) 各種記録の整備など、事業管理に必要な事項の遂行を徹底するとともに、その経過等を確実に記録に残す（令和3年度の不備の改善）。

【成果と課題】

事業管理に必要な会議・消防関係等の書類の整備は計画通り行えている。

(3) 経営状態を把握し必要な対策を講じる

毎月、月次試算報告を行い、財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図ると共に、年度の収支予測を丁寧に行い、黒字収支に向けた目標を随時確認、または必要に応じて変更する。

【成果と課題】

職員会議で月次試算表をもとに経営分析の結果を報告し経営状態を毎月確認した。就労支援事業の収支が悪化しているため対策を行った（7-1）-（1）③に記載）。

8 事故報告

1) 弁当製造における事故

7月に調理の過程で加熱が不十分な可能性がある唐揚げを提供してしまう事故があった。揚げ油の温度低下が原因と推測される。健康被害の報告はなかったが、冷凍唐揚げが加熱済みの商品か否かの確認を優先させてしまうなど、納品先への報告が遅れたことは、施設長の対応として大きな反省点である。以下の再発防止策及び対応方法を職員間で検討し、掲示の上、実施している。

(再発防止策)

①フライヤーに食材を投入する前に、その都度揚げ油の温度を測る。

②調理途中で複数回サンプルを取り、中心部の温度を計測するとともに、半分に切り、中心の加熱状況を目視で確認する

(事故発生時の対応)

①加熱不足など、食中毒の危険性がある事故などについて、速やかに納品先に連絡を行い、確認を要請後、法人へ報告を行う。

②不良品等の現物の保管を要請し、状況の把握を速やかに行う。

9 その他の課題と成果

1) 健康管理

利用者5名、職員1名が新型コロナウイルスに罹患したが、大きく感染が広がることはなかった。

9月に希望する利用者、職員に対して新型コロナウイルス4回目のワクチン接種を、12月にインフルエンザワクチン接種を実施した。

10 開所状況

1) 開所期間 自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間

(2) 開所時間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

午前7時30分～午後17時30分

(3) 年間延開所日数 243日間

(4) 平均活動時間 雇用契約者 5.1時間
利用契約者 5.6時間

1.1 利用状況

- 1) 利用者延人員 3,468名
- 2) 1日平均利用人員 14.3名
- 3) 年間実習人員 7名
- 4) 就労者延人数 1名
- 5) 私事都合退所者延人数 3名

1.2 利用者状況（令和5年3月31日現在）

1) 年齢

- 20歳未満 0名
- 20歳以上30歳未満 1名
- 30歳以上40歳未満 3名
- 40歳以上50歳未満 11名
- 50歳以上60歳未満 1名
- 60歳以上70歳未満 1名

2) 障害の状況

- 愛の手帳4度 4名
- 愛の手帳3度 2名
- 精神保健福祉手帳3級 6名（うち1名は身体障害者手帳と重複して所持）
- 精神保健福祉手帳2級 5名
- 身体障害者手帳 3級 1名

3) 通所手段

- 交通機関利用 4名 徒歩等 13名

4) 居住状況

- 管内居住 11名 管外居住 6名

5) 性別

- 男性 10名 女性 7名

1.3 利用者工賃

1) 雇用者－平均工賃

- 月額： 94,258円
- 時給： 1,072円（参考）東京都最低賃金

2) 利用者－平均工賃

- 月額： 38,046円
- 時給： 400円

1.4 環境の整備

施設内外の美化と利用者身辺の整理整頓につとめ、危険の防止に努めた。

1.5 防災計画

災害時避難訓練を年2回実施した。また、小平手をつなぐ親の会と共催で実施した防災訓練に参加した。